

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700020		
法人名	医療法人 豊医会		
事業所名	医療法人 豊医会 グループホーム くう		
所在地	岡山県美作市豊国原1056番地7		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・管理者が医師であり、同法人内の医院と連携し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。医療・介護両面での万全な支援体制がある。</p> <p>・利用者一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援し、些細なことでも本人に選択してもらう場面を作るようにしていき、自己決定できるように働きかけている。利用者のできることに着眼し、個々の役割を持ち、日々楽しみや活気ある生活ができるように支援している。</p> <p>・利用者が希望する場所や学校・地域の行事参加等積極的に外出している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>湯郷温泉のある県北地方都市のインターチェンジに近く、交通至便な場所に位置して、それぞれ特徴を持った2ユニットである。母体である医療法人と同一敷地内に在り、常時医師・看護師と連携が取れており、医療面が充実して安心したホーム生活が出来ている。運営推進会議等を通じて、地域との積極的交流が行われ、活性化したホームである。ホーム内外は清潔に保たれ、至る所に花が飾られ潤いがある。職員研修に鋭意取り組み介護レベルを向上させ、自分らしい、穏やかで安らぎの有るホームを目指している。介護施設・医療機関が取り巻く中庭は職員の意見も採用され作ったもので、安らぎと触れ合いの場所となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を年度毎に作り、今年度は「幸」と定め、リビングに掲示し、理念を常に意識できるようにしている。	新たに職員と一緒に考えて「地域の皆様と共に」を理念に加え、今年目標を「幸」として掲示し、職員個人個人が自由にイメージしてその実践に邁進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小中学校、地域の行事に積極的に参加している。日常的にも散歩や買物などにも外出している。	市の文化祭・中学校の吹奏会・小学校の運動会と地域の行事には積極的に参加し、お話しボランティア等の訪問も多く、日常的に地域との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の開催等、地域住民を対象にした認知症の勉強会等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者より評価、要望、助言を頂きながら、地域の行事等情報交換の場になっている。	活動報告・行事予定・入居者家族の要望等について協議され、運営推進委員の提案により電気ストーブをオイルヒーターに変え、参加家族の要望により月1回の買物外出等が実現されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外での運営や現場の実情等を伝える機会は少ないが、事故報告などの機会に合わせて情報を共有できる関係を築いている。	運営推進委員会のメンバーであり、疑問点等を相談している。行事等の情報提供を受け、敬老会ではトイレの近い場所に席を確保してもらう等、市の担当者との連携は進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。入居者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、散歩したりする等、安全面に配慮している。	外部研修会に積極的に参加し、身体拘束の具体的な行為等を勉強し内部研修で共有できるようにしている。身体拘束廃止委員会を設け、拘束をしないケアの実践を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度について、職員全員が理解できていないが地域での勉強会参加などにより学ぶ機会の確保に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や入居中起こりうる危険について、重度化や看取りに関する指針などについて詳しく説明し、同意を得ている。また、外部評価表の活用により、施設の現状も理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族には運営推進会議等で外部の人に、意見や思いを伝えられる機会を作り、ご家族には家族連絡表や面会時等で常に問いかけ、ご意見箱も設置しており、何でも意見を伝えてもらえる機会を作っている。	面会時に声掛けして懇談するように心掛け、日頃から自由に意見を話せる関係作りをし、意見箱も設置して入居者・家族の意見・要望の表出を支援をしている。月1回の買い物外出等、その意見を運営に反映している。	意見箱を設置し、運営推進会議に入居者や家族が参加しているが、家族・利用者のアンケート等を探り入れ、さらに広く深く意見を把握するように取り計らってはいかがでしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを2週間に1回開催して、職員の意見、要望を聞くようにしている。ミーティングでは発言し難いことは事前に報告してもらい関係作りを構築している。	ケアミーティングで介護に付いて気づいた点を職員で共有し、本年の運営方針「幸」は職員の叡智を集めて作り上げる等、職員の意見を積極的に運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回のマネージャー会議にて現場で起きている状況や変化を知る機会を作り、時折現場にも来ており把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階別に応じて受講できるようにしている。それらの研修報告は、事業所内研修として開催し、全職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流する機会が少ないのが現状であり、努力していく必要がある。が徐々に交流の機会が持てつつある状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談を行い、本人が置かれている状況を把握し、本人の思いや不安などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意見、状況を把握し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、理解するように努めており、共に支えあえる関係作りに留意している。洗濯物たたみ、簡単な調理補助等にも参加されている入居者もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族連絡表にて本人の日頃の状態を報告し、本人を支える為の協力関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容院の方に訪問してもらったり、知人や友人に会いに行ったり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援している。	盆や彼岸の墓参りや、外出時には遠回りをして元職場の前を通る等、今までの生活スタイルを大切にしている。行きつけた美容師が来たり、知人の電話も気軽に取り次ぐ等、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全職員が共有し、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のサービス利用者の場合は遊びに来てもらったり、遊びに行ったり等継続的な付き合いがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認している。	夕食後居室を訪問し横に座って目線を下げゆっくり話し、言葉に出なくても表情・行動等から思いを把握している。五感への適度な刺激を生活に取り入れており、入居者への職員の思いやりが感じられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を本人やご家族から継続的に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、できないことよりできることに注目し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意向を聞き、反映させるようにしている。職員間での意見交換や担当者会議などから現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が入居者・家族の意向・要望を聞いて、定期的にモニタリングしている。ケアプランは項目別に分けて詳細にチェックしており、支援経過をみながら現状に則した介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員の気づきや状態変化は介護記録に記載すると共に、申し送り表にも記載し、全職員が出勤時確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況や要望に応じて、予定以外の外出・外泊、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活が継続できるよう、部落長や民生委員と意見交換する機会を運営推進会議以外にも随時設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には管理者が医師であり、併設医療機関であるが、希望に応じて利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。その場合は家族同行の受診としているが、不可能な場合には職員が代行するようにしている。	継続して専門医にかかっている人もあるが、殆どの入居者が母体医療法人にかかっている。夕方には、医師である理事長・管理者が立ち寄り健康相談も出来、看護師とは何時でも連絡できる充実した医療支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。介護記録をもとに看護職員と確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院ができるよう、管理者兼医師と相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針についてと事業所内での看取りに関する指針について説明し、考えや要望を書面にて確認している。	看取り指針を設け全体で勉強会をしている。入居時に詳しく説明し、看取りをする体制はあるが、今まで事例は無い。入居者の中にはホームでの看取りを希望している人もあるので、重度化した時点になった時には家族と共に検討することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、全職員が急変や事故発生時に対応できるように周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、法人内での災害訓練を行っている。また、地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	運営規程に非常災害対策を盛り込み、法人全体で年2回順番に色々な状況を想定して防災訓練を行っている。避難経路・手順等を具体的に点検している。	近くグループホーム出火想定防災訓練も行われる予定なので、自然災害対策も含めてその効果を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	トイレや入浴時には基本的な自尊心への配慮しており、接遇について勉強し、目線を下げたり、横に座って話している。運営規程に個人情報保護を規定し、個人的な話は居室で行ない、個々のプライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて声かけをして、些細なことでも本人が決める場面を作っている。難聴の方には、ホワイトボードで筆談し、曖昧な伝わり方にならないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の意志を尊重したペースを大切にしている。また、行きたい所へ外出したり、したいことをしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援をしており、日頃から化粧やマニキュアをして楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を考慮し、摂取できないメニューの場合には代替を準備している。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事したり、時には中庭で食事会をしたり楽しく食事ができるようにしている。	入居者嗜好表を作り、職員の「検食簿」には味・彩・硬さ・温度等の所見を具体的に記入して食事を楽しむ工夫をしている。時には理事長が釣ってきた鯛等を皆で調理して、楽しく食べて入居者の喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成後、法人内の栄養士に確認してもらい栄養バランスに考慮している。食事・水分摂取量も把握しながら、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて食後は居室の洗面台にて行っていただく。利用者によってはガーゼによる口腔清拭を行い、肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。リハビリパンツやパッド類も本人の状況に合わせて使い分け、使用している。	入居者の排泄パターン・水分摂取量等を斟酌しながらトイレ誘導して、排泄自立に向けて支援している。各居室にトイレがあり、ナースコールが付いており排泄自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、毎朝牛乳を提供したり、1日の水分摂取量を把握し十分な水分補給を行うようにしている。また、散歩などの運動を行う機会を多くしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日利用者のその日の希望を確認して入浴していただいている。入浴拒否の利用者には日にちを変えたり足浴や清拭など行い、個々に沿った支援をしている。	入浴剤を使用、香りでリラックスし、職員と一緒に歌ったり昔話に花が咲き、入浴後にはマニキュアや顔のマッサージ等をしてもらい入浴を楽しんでいる。入浴可否の基準を設け、言葉かけにも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。睡眠導入剤を内服している方には睡眠状況を把握し、日中の活動の弊害となっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書を個人ファイルに保管し、全職員が分かるように徹底している。薬の変更や状態変化がみられた場合には詳細に記録すると共に管理者や医院看護職員との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力で発揮してもらえるような仕事を頼み、感謝の言葉かけをしている。また、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。最近では色塗りや計算問題が流行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って遠出の外出や買物、地域の行事参加等積極的に外出している。	ファーマーズビレッジや湯郷の花火・津山の衆楽園等への遠出や、中学生の吹奏コンサートにも積極的に出かけている。月1回の買い物・地域行事への参加も個別支援計画に盛り込み、本人の希望に沿うように職員体制を考え工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は自己管理できる範囲内で所持してもらい、買物などで使用している。ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時は自分で支払ってもらうようにお金を手渡す工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考えながら、毎月大きなカレンダーを作成と季節毎の壁画も作成している。テーブルには職員の自宅に咲く季節を感じられる花を飾っている。	居間では、大きなカレンダーに入居者が日にちを塗っていた。壁には協働作品や、今年目標「幸」が飾られている。炬燵コーナーもあり、壁紙もシックで落ち着いた心地良い共有空間となっている。転倒に備えてクッションフロアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と談話室が一体的な作りであるが、一人ひとりが思い通りの場所で過ごしてもらうようにしており、食堂の席は気の合った利用者同士が近くに坐るよう考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具、タンス、衣類などが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。	トイレ・洗面台・テーブルセットが備え付けで、筆筒やテレビなど使い慣れた物が持ち込まれている。どの部屋にもさりげなく花が生けられ、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、手すりの増設や畳部屋にカーペットを敷くなど対応している。また、居室の目印となるように出入口にツールペイントを飾っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700020		
法人名	医療法人 豊医会		
事業所名	医療法人 豊医会 グループホーム くう		
所在地	岡山県美作市豊国原1056番地7		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・医師である管理者と看護師を有する職員が配置されており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。医療・介護両面での万全な支援体制がある。</p> <p>・利用者一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援し、些細なことでも本人に選択してもらう場面を作るようにしていき、自己決定できるように働きかけている。利用者のできることに着眼し、個々の役割を持ち、日々楽しみや活気ある生活ができるように支援している。</p> <p>・利用者が希望する場所や学校・地域の行事参加等積極的に外出している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を年度毎に作り、今年度は「学」と定め、リビングに掲示し、理念を常に意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小中学校、地域の行事に積極的に参加している。日常的にも散歩や買物などにも外出している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の開催等、地域住民を対象にした認知症の勉強会等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者より評価、要望、助言を頂きながら、地域の行事等情報交換の場になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外での運営や現場の実情等を伝える機会は少ないが、事故報告などの機会に合わせて情報を共有できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。入居者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、散歩したりする等、安全面に配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度について、職員全員が理解できていないが地域での勉強会参加などにより学ぶ機会の確保に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や入居中起こりうる危険について、重度化や看取りに関する指針などについて詳しく説明し、同意を得ている。また、外部評価表の活用により、施設の現状も理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族には運営推進会議等で外部の人に、意見や思いを伝えられる機会を作り、ご家族には家族連絡表や面会時等で常に問いかけ、ご意見箱も設置しており、何でも意見を伝えてもらえる機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを2週間に1回開催して、職員の意見、要望を聞くようにしている。ミーティングでは発言し難いことは事前に報告してもらう関係作りを構築している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回のマネージャー会議にて現場で起きている状況や変化を知る機会を作り、時折現場にも来ており把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階別に応じて受講できるようにしている。それらの研修報告は、事業所内研修として開催し、全職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流する機会が少ないのが現状であり、努力していく必要がある。が徐々に交流の機会が持てつつある状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面談を行い、本人が置かれている状況を把握し、本人の思いや不安などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意見、状況を把握し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、理解するように努めており、共に支えあえる関係作りに留意している。洗濯物たたみ、簡単な調理補助等にも参加されている入居者もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族連絡表にて本人の日頃の状態を報告し、本人を支える為の協力関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容院の方に訪問してもらったり、知人や友人に会いに行ったり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全職員が共有し、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内のサービス利用者の場合は遊びに来てもらったり、遊びに行ったり等継続的な付き合いがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を本人やご家族から継続的に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、できないことよりできることに注目し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意向を聞き、反映させるようにしている。職員間での意見交換や担当者会議などから現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員の気づきや状態変化は介護記録に記載すると共に、申し送り表にも記載し、全職員が出勤時確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況や要望に応じて、予定以外の外出・外泊、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活が継続できるよう、部落長や民生委員と意見交換する機会を運営推進会議以外にも随時設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には管理者が医師であり、併設医療機関であるが、希望に応じて利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。その場合は家族同行の受診としているが、不可能な場合には職員が代行するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院ができるよう、管理者兼医師と相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針についてと事業所内での看取りに関する指針について説明し、考えや要望を書面にて確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、全職員が急変や事故発生時に対応できるように周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、法人内での災害訓練を行っている。また、地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように目立たずさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて声かけをして、些細なことでも本人が決める場面を作っている。難聴の方には、ホワイトボードで筆談し、曖昧な伝わり方にならないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日、その時の本人の意志を尊重したペースを大切にしている。また、行きたい所へ外出したり、したいことをしてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援をしており、日頃から化粧やマニキュアをして楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を考慮し、摂取できないメニューの場合には代替を準備している。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事したり、時には中庭で食事会をしたり楽しく食事ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成後、法人内の栄養士に確認してもらい栄養バランスに考慮している。食事・水分摂取量も把握しながら、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて食後は居室の洗面台にて行っていただく。利用者によってはガーゼによる口腔清拭を行い、肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。リハビリパンツやパッド類も本人の状況に合わせて使い分け、使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、毎朝牛乳を提供したり、1日の水分摂取量を把握し十分な水分補給を行うようにしている。また、散歩などの運動を行う機会を多くしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日利用者のその日の希望を確認して入浴していただいている。入浴拒否の利用者には日にちを変えたり足浴や清拭など行い、個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。睡眠導入剤を内服している方には睡眠状況を把握し、日中の活動の弊害となっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書を個人ファイルに保管し、全職員が分かるように徹底している。薬の変更や状態変化がみられた場合には詳細に記録すると共に管理者や医院看護職員との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力で発揮してもらえるような仕事を頼み、感謝の言葉かけをしている。また、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。最近では色塗りや計算問題が流行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って遠出の外出や買物、地域の行事参加等積極的に外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は自己管理できる範囲内で所持してもらい、買物などで使用している。ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時は自分で支払ってもらうようにお金を手渡す工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考えながら、毎月大きなカレンダーを作成と季節毎の壁画も作成している。テーブルには職員の自宅に咲く季節を感じられる花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と談話室が一体的な作りであるが、一人ひとりが思い通りの場所で過ごしてもらうようにしており、食堂の席は気の合った利用者同士が近くに坐るよう考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具、タンス、衣類などが持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、手すりの増設や畳部屋にカーペットを敷くなど対応している。また、居室の目印となるように出入口にツールペイントを飾っている。		